

路上生活者の個人史

第7回

竹中尚文

今回、聞き取りに応じてくれたのは宮城智幸氏(仮名)と広島慎治氏(仮名)である。お二人とも、とてもインタビューをとりにくかった。話したくないことがあるのを感じながら、それを問うことをしなかった。お二人は戦後十年が過ぎた時代に生まれて、高度経済成長期に育った。経済成長が破綻した時は中年であった。全く異なる所で生まれて、育った二人である。話を聞いていて、何か同じ時代を生きてきたのだと感じた。

宮城智幸氏(仮名)1955年生まれ。

生まれたのは、東京です。生まれて間もなく父親は亡くなりました。だから、私は父親の顔を覚えていません。母子家庭とはいいいながらも、歳の離れた兄が二人いました。私が小学校の頃には二人とも働いていましたので、経済的に苦しい生活の記憶はありません。だからといって、高等教育を受けようという空気でもなく、学校を終えるとできるだけ早く仕事に就くものだと思っていました。

中学校を卒業して電気の専門学校に行き、電気工事の会社に就職

しました。

母親は、私が30代の時に亡くなりました。それからは、兄弟とも疎遠になりました。結婚して、子どもが二人ありましたが、40代で離婚しました。それから子どもたちとも会っていません。離婚の理由ですか？勘弁して下さい。

趣味はパチンコでした。他に趣味と言えるようなものはありませんでした。パチンコは開店から閉店まで一日中、やっていました。40代で止めました。止めた理由ですか？いいじゃないですか、聞かないで下さい。

仕事は 50 代半ばで辞めました。頑張っ
て生きようという気力もなかったの
でね。一人だし、何となく生きてい
ればいいのかという気分です。今の
生活は年金がありますから、アパー
トで暮らしています。何か欲しい
ものがある訳でもないの、いい暮
らしですよ。

広島慎治氏(仮名)1956 年生まれ

生まれは、新潟県です。両親と兄
と姉がありました。実家は専業農家
でした。周囲の同級生と同じ小学校、
中学校、高校を卒業したと思ってい
ました。特に何か、将来に対して選
択肢があったようには感じません
でした。高校を卒業するとき兄がい
ましたから、農業を継ぐことはでき
ないと思いました。就職先も田舎で
すから、たくさんある訳でもなく国
鉄に入りました。

18 歳で就職をして、25 歳の時に
結婚をしました。30 歳の時に国鉄民
営化で辞めることになりました。多
くの同僚と一緒に辞めました。

それから病院事務をして、薬屋さ
んで 3 年ほど勤めました。売り上げ
等に煩わされるのが嫌で、工場勤務
で 10 年ほど勤めました。

45 歳の時にパチンコの借金がど
うしようもなくなって、妻子を置いて
逃げました。

横浜に逃げて、建築現場で働きま
した。そこで 20 年間、1K マンショ
ンをあてがわれて働きました。60 歳
を越してから、毎年の夏が辛くなり
ました。炎天下の仕事が耐えきれな
くなって、大阪に逃げてきました。

今は公園で野宿をしています。ま
た何か仕事を始めるつもりです。生
活保護の申請は、するつもりはあり
ません。今でも、女房と子どもの夢
は見ます。会いたい、って。それ
は思いません。思ったらダメですよ。

【聞き取り者の後記】宮城氏も広島
氏もそれぞれの人生で間違っ
たことをしてしまったと思ってい
ると感じました。それが間違いであ
ったことを自認しているようです。
それに対するペナルティーは第三
者が決めたのではなく、自らが決
めたことだと思えます。